

第 1 回行田市景観計画策定委員会 議事録

日 時	令和 5 年 12 月 18 日 (月) 15:00~17:00	場 所	地方庁舎 3 階 302 会議室
出席者	所 属	出席者 (以下、敬称略)	
委員	ものつくり大学	大竹委員長	
	(株)カラープランニングセンター	田邊副委員長	
	行田商工会議所	戸塚委員	
	公益社団法人行田青年会議所	大野委員	
	特定非営利活動法人忠次郎蔵	田村委員	
	行田市文化財保護審議会	栗岡委員	
	利根地域振興センター	福原委員	
	公募市民	岡田委員	
	欠席	吉岡委員、宮本委員	
行田市	都市整備部	高橋部長、寺田課長、吉田副参事 (司会)	
事務局	都市整備部都市計画課	井上主幹、福島主任、栗田主任	
オブザーバー	(株)都市環境研究所 (都市環境)	下山、稲葉、橋戸	
傍聴人	1 名		
議事	(1) 行田市景観計画の策定について (2) 調査等の実施について (3) 市の現況と主要な課題について		
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・工程表 ・資料 1 行田市景観計画の策定について ・資料 2-1 文献・データ調査 ・資料 2-2 まち並み調査 ・資料 2-3 市民等の意識調査 ・資料 3-3 景観特性および発展の方向性について 		

1. 開会

吉田都市整備部副参事より委員 10 名中 8 名の出席が確認され、行田市景観計画策定委員会設置要綱第 6 条第 2 項の規定により、本委員会が成立していることが報告された。

2. 委嘱状交付

高橋都市整備部長より委員を代表して大竹委員に委嘱状が交付された。

3. あいさつ

高橋都市課整備部長より挨拶があった。

4. 各委員及び事務局の自己紹介

5. 委員長及び副委員長の選出

高橋都市整備部長より大竹委員に委員長任命書が交付された。

大竹委員長より田邊委員が副委員長に指名された。

6. 議事

(1) 行田市景観計画の策定について

- ・事務局より議事（1）について説明があった。
- ・質疑なし

(2) 調査等の実施について

(3) 市の現況と主要な課題について

- ・事務局より議事（2）、（3）について説明があった。

【質疑応答】

田邊副委員長：色彩調査やサイクリングなどを通して行田のまちを見る中で、資料3の2ページ目にもあるように、行田市の景観資源は、市域に広く点在していることが特徴であると感じている。景観計画を策定することで、比較的規模の大きな建築物や工作物を届出により規制誘導していくことと同様に、点在する景観資源の間をより良くしていくことが重要である。例えば、行田市の街中では、日本遺産の構成要素が歩く道すがらに見えていくが、資源の間の道すがらがより魅力的なものになれば、平成11年策定の景観形成基本計画にも掲げられていた、点としての景観資源が線になり、線が面になる視点が実っていく。一方で、これらを実現するために行政で出来ることは限られているため、市民が景観を自分事として考えられるような取組を推進することが重要である。市民アンケートの結果では、行田市の景観に魅力を感じない市民の割合が55%だったが、これは非常に残念であり、また、無責任なことであると感じた。「自身が住んでいる町が魅力的ではないと困る」と言えるくらいの市民性となるよう、市民との協働や景観へ目を向けるようにしてほしい。そのためにも、1月に開催されるワークショップのような取組に多くの市民が参加し、そこに参加した市民が次の取組の核になるようなサイクルが出来ていくと良いと感じた。現在は各景観資源が遠く、来訪者にとっても訪れにくさや巡りにくい面がある。点と点をつなげるような施策をぜひ考えていただきたい。

大竹委員長：よろしければ、好きな景観や魅力について委員一人ずつご意見をいただきたい。

戸塚委員：行田の街中には城下町の名残で昔ながらの入り組んだ通りが裏通りに現存し、攻めにくい構造になっている。その魅力を発信するため、私が代表を務めるNPO法人行田観光物産会では、行田で迷ってもらおうという趣旨で「行田の迷い方」という冊子を発行した。自分たちが幼少期から見てきた景色でもあり、一見つながらないように見える先に横丁があるなどの魅力を発信し、観光客にも見ていただきたい。

- 大野委員：私が所属する行田青年会議所にはまちづくり委員会があり、今年3月には、行田市総合公園と八幡通り、忍城址、さきたま古墳公園の来場者、100名強を対象にアンケート調査を実施した。回答者の8割以上が行田市外の方であり、市民が市内のスポットを訪れていないことが明らかになった。そこで、市民が市内のスポットを訪れ楽しんでいただくことを目的に、今年10月にさきたま古墳公園で「スカイランタン祭り」を開催した。行田市は魅力発信力が弱く、よりハード面を強化していくことも必要であると感じた。私は、さきたま古墳公園をより魅力的な場所にしていきたいと感じている。
- 岡田委員：現在、街中の蔵を活用して店舗を営んでいる。私が子供の頃は、行田の街中はとても賑わっていたが、今では空き店舗が増え、静かな印象である。普段は持田の住宅地に住んでいるため、行田市駅周辺のことあまり知らなかったが、お店をする中で気づいたことが多くある。空き店舗や空き家の利用が増えるようなまちになると良いと感じている。
- 田村委員：私が所属するNPO法人忠次郎蔵は、足袋蔵の維持管理とまちの賑わいづくりを目的に活動している。先ほど田邊副委員長が「点を線に」という話をされていたが、実際に、忠次郎蔵に来る方はいるが、その後につながっておらず、行田は点から線につながらない印象がある。一方で、最近では花手水の取組により、市内を歩いて回る方が増え、点が線になりつつあると感じている。個人的な想いとしては、「つくられた町」ではなく、まず市民が楽しく、誇りを持てるようなまちにしたい。外から来る人のためではなく自分たちのためのまちづくりができれば、自然と来訪者も増えるのではないかと思う。そういった方向で、この計画もまちづくりも進めていけるとよい。
- 栗岡委員：さきたま古墳公園を管理している立場として、文化財の観点でみると、行田市には全国に誇る古墳群があり、その後も中世に建てられた忍城址、日本遺産に登録されている足袋蔵など、歴史上のポイントがいくつかあるまちであると感じている。このようなまちは非常に貴重であり、歴史的には川越や秩父などと肩を並べられるポテンシャルがあると感じている。ただ、市域の広いエリアに資源が点在していることが良い意味でも悪い意味でも特徴だと感じている。以前、別の博物館で中世をテーマとしたまちあるきイベントで行田のまち歩きをした。北鴻巣駅から緑道を歩き、丸墓山に登って石田三成に、その後に街中へ歩いた。その際、今は人が通らないような街中に現存する鍵型の道や閉鎖された門（城に出入りする小口の一つ）を紹介した。このような道は住民からしたら不便かもしれないが、まちの魅力としてはプラスに働くのではないか。このようなものを守るのも景観計画ではないか。また、行田の埼玉に来て赤城おろしの凄さを実感した。昔から住んでいる方にとっては当たり前かもしれないが、赤城おろしを吹き下ろす赤城山が見え、

家の周りには風を防ぐための防風林や屋敷林が設けられていることなど、行田特有の自然環境と今のまちの姿が結びついているような、理屈を説明すると感動することが説明しきれいていないと感じる。点をつなぐ視点では、さきたま古墳公園と古代蓮の里がグループになり、蓮が咲く季節には歩いてさきたま史跡の博物館まで来る方が結構いた。街中の花手水はきれいだが、花手水を見に来た人が歩いて古墳公園までは来ない。街中と古墳公園の距離がどうしても遠く、もう少しつなげられないかということに悩んでいる。景観づくりを通して各拠点が少しでもつながり、市民が自信を持って行田の魅力を伝えられるようになると良いし、そのためのサポートをしていきたい。文化財の観点から意見をまとめていきたいと考えている。

福原委員：行政機関の者として、アンケート結果は非常に残念である。私は今年4月に行田に赴任したが、とても魅力を感じた。魅力は各委員の方が説明して下さったが、それをどう市民に認識いただき、活かすかは、まさしく景観計画の在り方に関わることだと思う。今後2年間で景観計画と景観条例を策定するという非常にタイトなスケジュールだが、市民に広く認識していただけるようにしてほしい。次回のアンケートではもう少し行田市に魅力を感じる市民が増えることを期待している。

大竹委員長：皆さま、ありがとうございます。行田市はスポットが点在していて、各スポットの規模が大きく、1箇所訪れたら次のスポットに行くことが大変だと感じている。また、例えば埼玉古墳群周辺をまず訪れた際に、古代蓮の里周辺や行田市駅周辺の街中には駐車場や何があるのか、見たいところがあるのかということがわかりにくいことも課題と感じている。

7. その他

(1) 景観ワークショップについて

事務局：令和6年1月14日（日）と22日（月）の2日間において行田市商工センターにおいて実施する。先週、市のホームページとSNS等で情報を発信し、市報の1月号においても周知する。ワークショップを通して、市民が感じている景観の魅力等を把握し、情報共有と連携を図っていきたい。

事務局：2日とも実施内容は同様であり、参加しやすい日時を選んでもらうようにしている。景観計画は市内全域が対象だが、今後景観形成重点地区を定めていくに当たり、中心市街地は足袋蔵や忍城址をはじめ魅力的な資源が多いため、ご商売をされている方や多くの人が集まりやすいという観点から、日曜日の日中と平日の夜とで2日間の実施日程を設けている。ワークショップを通して、市民の皆様と共通認識を持ちながら、景観に愛着を持っていただけるようにしたい。また、ワークショップには、埼玉県の景観アドバイザー

ザーにもお越しいただく予定である。

(2) 次回の策定委員会について

事務局：令和6年3月を予定している。日程調整は改めてご連絡させていただく。

8. 閉会

以上

<会議録の確定>

確定年月日	主宰者氏名
令和 6 年 2 月 5 日	大竹 由夏